

ペマ・シンリー研究員（ブータン）



はじめまして。私はブータンから来ましたペマ・シンリーと申します。ブータンでは防災局で情報通信技術（ICT）および地理情報システム（GIS）の担当官として働いています。また、より効果的な災害対応、早期警報システム、人材能力等の制度等を検討する救援部署に在籍しています。

日本ではGIS、ICT、リモートセンシング（RS）の分野において、多くの専門家により様々な知見や経験を有しています。そのため、今回ADRCの客員研究員として選ばれたことは、大変光栄で幸運なことだと感じています。今回の研究を通じて、カンボジア、バングラディシュ、イランから来日した他の客員研究員と共に学ぶことを大変楽しみにしています。私が日本に滞在する期間、防災および緊急対応の分野におけるGIS、RS、ICTの利活用について学び、得られた知識を自国に持ち帰り、有効的に役立てたいと思います。

地理的には、ブータンは世界でも活発な地震帯のひとつに位置しています。地震の他、ブータンにとっては氷河湖決壊洪水（GLOF: Glacial Lake Outburst Flood）が大きな課題となっていて、優先して検討すべき事項となっています。ここで述べたGLOFとは、近年の気候変動を伴った地球温暖化により、高地に位置するブータンの氷河が溶け、河川沿いに大規模な洪水を引き起こす現象です。他にも、地すべり、鉄砲水、暴雨、火事などが多くの自然災害が発生し、これら災害によって多くの貴重な人命や財産が奪われています。特に、これら災害の発生においては、地方での被害が顕著で大きな問題となっています。この点に関しては、ブータン政府は、計画開発に関する活動、社会および経済、人命への配慮を包含した災害リスク減少に関する計画の策定を、現在の主要な活動としています。

防災局の設立の経緯について説明します。私が所属する防災局は、かつて内務文化省における地方政府のひとつの担当部署でした。それまでは、災害管理に関するすべての活動は後手の対応になっていました。その後、効果的な災害管理の重要性が認知され、ブータン政府は2008年に防災局を現状の地位に格上げさせました。2013年初頭まで防災局は防災事業・活動に関連する政策決定・立案のガイドラインとして、国家災害リスク管理フレームワークに依拠しており、続いて2013年3月18日施行された、ブータン災害管理法により防災局の役割は、より明確になりました。

最後に、今回の機会を頂いたブータンおよび日本政府に感謝を申し上げます。